

2010 度 北京大学－慶應サマースクール開講

2010 年 8 月 2 日より 5 日間、協定校である中国 北京大学医学部と慶應義塾大学医学部による「KEIO-PEKING サマースクール 2010」が信濃町キャンパスにて行われました。8 月 4 日には、末松誠学部長ほか教授陣との会談、および病院や最新の研究設備の見学の後、午後からシンポジウムが開催されました。学部生、大学院生ら多数の参加者が集まり、日比紀文内科学(消化器)教授、熬英芳北京大学医学部運動医学研究所所長・教授ほか、両校の教員 6 名による講演とレセプションを通して活発な意見交換を楽しみました。

本サマースクールは、国際化拠点整備事業(グローバル 30)とグローバル COE プログラム『In vivo ヒト代謝システム生物学拠点』の共催の下、北京大学から4名の教授と6名の学部生を迎えて、新たな連携と交流の強化を目的として開催したイベントです。北京大学の学生は、それぞれ興味のある複数の研究室に2日間滞在し、最終日には修了式が行われました。

北京大学医学部は、1912 年に西洋医学を教える初の国立教育機関として設立された北京国立医学学校がその前身で、現在、中国でもっとも優秀な医学部のひとつであり、8 つの大型病院を保有しています。慶應医学部では 2006 年に包括協定を締結しており、今後も教員の相互派遣、学生交換、個々のプロジェクトにおける協力など、多面的な交流が期待されています。

グローバル COE プログラム『In vivo ヒト代謝システム生物学拠点』:

<http://www.gcoe-metabo.keio.ac.jp/index.html>



集合写真



研究設備の見学



レセプションにて韓晶岩教授(中央)と慶應医学部生



修了式にて安井正人教授(中央)と北京大学医学部生